

Silent Film Renaissance 2006

# シネマの冒険 闇と音楽 2006



愛の町

**N F C**  
小ホール  
**京橋映画小劇場**  
**KYOBASHI-ZA**  
No.4

2006年 10月27日金 - 11月12日日

※金曜日・土曜日・日曜日の上映となります。

東京国立近代美術館フィルムセンター 小ホール(地下1階)

開映後の入場はできません。

定員=151名(各回入替制)

発券=地下1階受付

料金=一般1,000円/高校・大学生・シニア800円/小・中学生600円/

障害者(付添者は原則1名まで)は無料

・観覧券は当日・当該回にのみ有効です。

・発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切となります。

・学生、シニア(65歳以上)、障害者の方は、証明できるものをご提示ください。

・発券は各回1名につき1枚のみです。

東京国立近代美術館フィルムセンター

**National Film Center**  
The National Museum of Modern Art, Tokyo

小ホール  
上映作品

シネマの冒険  
闇と音楽2006

Silent Film Renaissance 2006

映画生誕100周年を迎えた1995年、フィルムセンターは様々な無声映画を音楽の生伴奏や弁士の語りとともに提供するシリーズ企画「シネマの冒険 闇と音楽」を開始し、その都度生の音や声を引き出す無声映画の魅力を紹介してきました。この度は《京橋映画小劇場》の第4回企画として、「シネマの冒険 闇と音楽2006」を開催します。

今回の企画では、従来のシリーズに変化を加え、活弁はもちろんのこと、笛やギター、アコーディオン、二胡といった様々な楽器の伴奏とともに無声映画の上映を行います。内田吐夢の『喜劇 汗』、林長二郎(長谷川一夫)主演作品『風雲城史』、そしてマックス・ランデー主演の短篇コメディや『ジゴマ』、1930年代上海映画の名作『桃花泣血記』など、多彩な上映プログラムで皆様のご来場をお待ちしております。

また、本企画で生伴奏もしくは活弁とともに上映する4本の溝口健二作品は、大ホールで10月31日から開催の「没後50周年 溝口健二再発見」において無声もしくはサウンド版で上映いたします。無声上映、サウンド版、そして生伴奏付き上映がそれぞれ醸し出す映画の世界をご覧ください。幸いです。

■ ㊦ = 監督 ㊦ = 原作・原案 ㊦ = 脚本・脚色 ㊦ = 撮影 ㊦ = 美術・装置・舞台設計 ㊦ = 音楽 ㊦ = 出演  
■ 本特集には不完全なプリントが含まれています。  
■ 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。



東京行進曲



瀧の白糸

◆ 溝口健二作品

1 11/3(金・祝)0:00pm 11/4(土)3:00pm

東京行進曲

(22分・18fps・16mm・白黒・部分)

\*この作品は大ホール企画「没後50年 溝口健二再発見」でも上映されます(無声上映)。

菊池寛の小説の映画化で、近代的な都市風景をバックに展開されるクラシカルな恋愛劇。貧民の娘と富豪の子息との間に秘められた過去に、社会的な矛盾もまた浮かび上がる。現存するのは部分のみであり、今回上映されるのはフィルムセンター所蔵版である。

'29(日活大塚) ㊦菊池寛 ㊦木村千疋男 ㊦松沢又男 ㊦横田達之 ㊦夏川静江、一木礼二、高木永二、小杉勇、入江たか子、佐久間妙子、滝花久子

ふるさとの歌(50分・20fps・35mm・白黒)

\*この作品は大ホール企画「没後50年 溝口健二再発見」でも上映されます(無声上映)。

現存するもっとも初期の溝口作品。文部省が日活に製作を委託した作品で、都会生活よりも郷土愛を説く主人公の学生の姿などにはプロパガンダの要素も見られる。だが一方で、列車や車といった乗り物が見せる田園風景のパースペクティブなどが大胆に捉えられており、視覚的な魅力にも富んでいる。

'25(文部省=日活) ㊦松居張二 ㊦清水龍之介 ㊦横田達之 ㊦亀原嘉明 ㊦木藤茂、高木耕二郎、伊藤寿栄子、辻峯子、川又賢太郎、加藤司郎、松本静江、橘道子、宇田川寒待、川田弘道

2 11/4(土)0:00pm 11/5(日)3:00pm

瀧の白糸(102分・24fps・35mm・白黒)

\*この作品は大ホール企画「没後50年 溝口健二再発見」でも上映されます(無声上映)。

泉鏡花の「義血侠血」を原作とする、無声期の溝口を代表する新派メロドラマ。愛する青年の夢を叶えるべく、身を削って金の仕送りをする水芸の太夫・瀧の白糸の破滅を、溝口らしい容赦ない筆致で描いている。製作は、美貌と気品でスターに登りつめた入江たか子が兄の東坊城恭長と設立したプロダクションだが、現代劇女優の個人プロダクションは当時極めて珍しかった。

'33(入江ぶろだくしょん) ㊦泉鏡花 ㊦東坊城恭長、館岡謙之助、増田真二 ㊦三木茂 ㊦西七郎 ㊦入江たか子、岡田時彦、村田宏壽、菅井一郎、見明凡太郎(朗)、大泉滉二、ジョー・オハラ、沖悦二、川瀬隆司、浦辺桑子、瀧鈴子

3 11/3(金・祝)3:00pm 11/5(日)0:00pm

折鶴お千(91分・24fps・35mm・白黒)

\*この作品は大ホール企画「没後50年 溝口健二再発見」でも上映されます(サウンド版)。

泉鏡花の「売色鴨南蛮」が原作。悪徳商人に利用され、運命に弄ばれた男女があまりに対照的な人生を歩むことになる展開は、『瀧の白糸』にも通ずる。溝口がしばしばテーマにした「男のために身を滅ぼす女」はここでも冷徹な眼差しで捉えられ、当時17歳の山田五十鈴が演じた、慈悲の心と艶やかさ、そして絶望感を兼ね備えたお千のキャラクターが見事である。

'35(第一映画) ㊦泉鏡花 ㊦高島達之助 ㊦三木稔 ㊦小栗美二 ㊦夏川大二郎、山田五十鈴、芳沢一郎(羅門光三郎)、芝田新、島井正、藤井源市、北村純一、瀧沢静子、中野英治



折鶴お千

◆無声映画名作選

**4** 10/28(土)3:00pm 10/29(日)0:00pm

**愛の町**(105分・18fps・35mm・白黒)

フランスの小説家エクトル・マロの『家なき娘』が原作。現存する数少ない無声映画時代の田坂監督作品の一つ。愛する者たちを次々に失いながらも、優しさを貫くことで周囲の信頼を勝ち取り、人生を切り開いてゆく女性を夏川静江が演じる。

'28(日活大業)◎田坂具隆◎エクトル・マロウ(マロ)◎山本嘉次郎◎伊佐山三郎◎小山義一◎三樹豊、夏川静江、南部彰三、糸緒小絵子、佐藤丹治、見明凡太郎、吉井康

**5** 11/10(金)2:00pm 11/12(日)0:00pm

**風雲城史**(68分・20fps・35mm・白黒)

林長二郎時代の長谷川一夫が出演する松竹下加茂作品。林長二郎の松竹時代の作品の多くは失われており、このフィルムもベルギーの王立シネマテークで発見され、復元されたもの。ここでは、彼の若々しいキレのある動きを目の当たりにすることができる。

'28(笠笠映画連盟=松竹)◎山崎藤江◎星哲六◎円谷英一◎林長二郎(長谷川一夫)、小沢若一郎、相馬一平、小川雪子、千早晶子、正宗新九郎、風間草六、中川芳江

**6** 10/27(金)2:00pm 10/29(日)3:00pm

**喜劇汗**(67分・18fps・35mm・白黒)

搾取するブルジョワに痛烈なカリカチュアで応えた内田吐夢の作品。喜劇風に仕立てられているが、内容が内容だけに、検閲に引っかかるからぬよう、会社内部で作品は一部改変された。そのため「中途半端な社会諷刺に終始した」というような辛口の評価もあった。

'30(日活大業)◎内田吐夢◎小林正◎松澤又男◎池田延治郎◎島耕二、吉井康、土井平太郎、赤星黙、村田宏壽、田村邦男、沖悦二、滝花久子

**7** 10/27(金)6:00pm 10/28(土)0:00pm

**マックス・ランデー短篇集**(計79分)

フランスの無声映画コメディを華々しく飾ったマックス・ランデーは、日本で「新馬鹿大将」の名で親しまれたパテ社の花形コメディアンであるアンドレ・デードの移籍を期に、1900年代後半より映画俳優として頭角を現すようになる。パテ社が与えた“ブルジョワ紳士”のスタイルをものにして、1910年から製作され始める「マックス」シリーズに主演し、1911年以降には自らが監督までもこなし、大スターの座に君臨した。今回上映する8本は小宮登美次郎コレクションのもので、クレジットのない作品も含まれているが、チャップリンに影響を与えたとも言われている「マックス」シリーズの魅力を語る重要な作品群である。

**マックスの近視眼**【英語版】  
(6分・18fps・35mm・染色)

LE DUEL D'UN MONSIEUR MYOPE

極度な近視のマックスがありとあらゆる失態を繰り返す。

'10(パテ・フレール)◎ルイ・ガスニエ◎マックス・ランデー



風雲城史



マックスの近視眼

**マックスとピアノ**【英語版】  
(15分・18fps・35mm・染色)

MAX MAÎTRESSE DE PIANO

著名なピアニストを父に持つ娘に求婚するマックスは必死にピアノが弾ける振りを試みる。

'10(パテ・フレール)◎リュシアン・ノンゲ◎マックス・ランデー

**マックスの快癒**【英語版】  
(10分・18fps・35mm・染色)

MAX EN CONVALESCENCE

久々に帰郷したマックスを、家族たち、犬そして馬が思いのやり方で歓迎する。

'11(パテ・フレール)◎マックス・ランデー◎マックス・ランデーの家族

**マックスと規那入り葡萄酒**  
(18分・18fps・35mm・白黒)

MAX ET LE QUINQUINA

規那入り葡萄酒を一気に呷ったマックスが泥酔して大騒ぎする。

'11(パテ・フレール)◎マックス・ランデー◎モーリス・ドラマル◎ジャック・ヴァンデンヌ、ガブリエル・ランジュ、ボレット・ロルジー、リュシンドルベル

**マックスと犬**【英語版】  
(9分・18fps・35mm・染色)

MAX ET SON CHIEN DICK

マックスは、恋敵から運良く勝ち取った妻の浮気防止のため愛犬ディックを見張り役にする。

'11(パテ・フレール)◎マックス・ランデー◎ジェーン・ルヌアール、アンリ・ボスク、犬のディック

**マックスの電話結婚(電話交換手)**【英語版】  
(4分・18fps・35mm・染色)

UN MARIAGE AU TÉLÉPHONE

偶然しゃべった電話交換手に恋したマックスだが、誤って別の交換手を食事に誘ってしまい……。

'12(パテ・フレール)◎マックス・ランデー◎スターシャ・ナビエルコフスカ

**マックスの農場恋愛詩**【英語版】  
(10分・18fps・35mm・白黒)

UNE IDYLLE À LA FERME

マックスは借金を形に、返済を請け負った伯父の友人の2人の娘どちらかと結婚することになる。

'12(パテ・フレール)◎マックス・ランデー◎スージー・ドブプシー

**マックスの舟遊び**【英語版】  
(7分・18fps・35mm・染色)

A MOTOR BOAT TRIP (英語題)

妻をマックスに取られそうになった夫は、3人でモーターボートクルーズをすることにした。

不明(パテ・フレール)◎マックス・ランデー



マックスと犬



マックスの電話結婚(電話交換手)

**8** 11/10(金)6:00pm 11/11(土)3:00pm

**花の奇蹟**【英語版】  
(13分・18fps・35mm・彩色)

MIRACLE DES FLEURS

1910年代の有名な女性ダンサーのスターシャ・ナビエルコフスカが男役として登場する。一人の美女をめぐる三角関係、そして美女の移り気な態度に翻弄される男の繊細な心の動きが、彼女の美しくなやかな身振りによって表現される。

'12(パテ・フレール)◎ルネ・ブルランス◎スターシャ・ナビエルコフスカ、ホルドニー嬢

**ジゴマ**(54分・18fps・35mm・染色)

GIGOMAR

変幻自在の怪盗ジゴマが数々の驚異的な犯行を繰り返す。映画のトリックが効果的に用いられた本作は公開当時大々く話題を呼んだ。好評につき続編も製作され、フランス本国では子供たちの間で大流行となり、その悪影響が議論されたほどであった。上映するフィルムは映画コレクター・鳥羽幸信旧蔵の版。

'11(エクレール社)◎ヴィクトラン・ジャッセ◎レオン・サジー◎ラヴェ◎アレクサンドル・アルキリエール、アンドレリアベル、シャルル・クロース、ジョゼット・アンドリオ

**9** 11/11(土)0:00pm 11/12(日)3:00pm

**桃花泣血記**(95分・24fps・35mm・白黒)

桃花泣血記

幼なじみである地主の息子と小作人の娘の深い愛が、身分差のために周囲に引き裂かれ、度重なる不幸の中で娘は赤子を生むが、男との再会を目前に病死するという悲恋物語。本作に主演の阮玲玉と金焰は栄華を誇った上海映画のスターとして孫瑜(スン・ユイ)らの名監督に起用され、絶大な人気を誇った。

'31(聯華影業公司)◎ト萬蒼(ブー・ワンツァン)◎黄紹芬◎趙扶理◎阮玲玉(ロアン・リンユイ)、金焰(チン・イェン)、周麗麗、李時苑、韓蘭根、劉繼群、黎鮑珠

■大ホール企画

**没後50年 溝口健二再発見**  
Kenji Mizoguchi Retrospective

10月31日(火)―11月16日(木)  
11月28日(火)―12月27日(水)

※上映作品、時間などの詳細は当該チラシをご覧ください。



花の奇蹟



ジゴマ

弁士紹介

(50音順)

片岡一郎(かたおか・いちろう)

日本大学芸術学部演劇学科卒。高校時代より演劇活動を始め、大学時代には演出も行う。話術研究会「蛙の会」での活弁や紙芝居の話芸修業を経て、2003年に澤登翠入門後もなくデビュー。福岡詩二門下のヴァイオリン演奏師でもあり、活弁の他、幅広い活動を行う。



斎藤裕子(さいとう・ゆうこ)

演劇を中心に活動し、中国・東南アジアの国々へ国際交流基金派遣公演にも参加。2000年、「東京キネマ倶楽部」の弁士オーディションに合格し、翌年に弁士デビュー。澤登翠の門下として、「無声映画鑑賞会」への出演や、「キネマ・コラボレーション」を自主開催するなど、数々の活弁公演を行っている。



坂本頼光(さかもと・らいこう)

1997年にマツダ映画社主催の話術研究会に入って活弁修業した後、2000年に正式デビュー。以後、時代劇作品を中心に数々の活弁ライブを行う一方で、2004年以降、自作のアニメーションでの活弁パフォーマンスも行っている。



桜井麻美(さくらい・まみ)

TBCラジオ番組リポーターでの活動を経て、2001年には「東京キネマ倶楽部」の弁士オーディションに合格。2年後に澤登翠門下へ入る。以後、各所で弁士として活動している。又、DVD「こども 世界名画の旅」で声の出演をしている。



澤登翠(さわと・みどり)

法政大学文学部哲学科卒業。故松田春翠門下。日本の代表的弁士として国内外で公演を行い、「弁士」の存在をアピールし高い評価を得る。「伝統話芸・活弁」の継承者として「活弁」を現代のエンターテインメントへと趣かせ、文化庁芸術祭優秀賞他数々の賞を受賞。適確な作品解釈による多彩な語り口で、手がけた無声映画は500本を超える。



活弁伴奏者紹介

(50音順)

鈴木真紀子(すずき・まきこ)

[フルート]  
桐朋学園大学音楽学部卒、フルートを峰岸壮一氏に師事。1994年オーストリアとスイスで国際フルートセミナーに参加、ファイナルコンサートに出演。現在、楽団「カロード・モトーン」や芹洋子のアコースティックバンドのメンバーとして活動。また、NHK放送博物館での室内楽シリーズにレギュラー出演中。



新垣隆(にいがき・たかし)

[作曲・編曲、ピアノ]  
桐朋学園大学音楽部作曲科卒。三善晃、中川俊郎各氏に師事。作曲家、ピアニストとして活動。桐朋学園大学非常勤講師。



湯浅ジョウイチ(ゆあさ・じょういち)

[作曲・編曲、ギター]  
1987年東京国際映画祭でD・W・グリフィスの「国民の創生」の音楽制作・演奏以来、無声映画用の楽団版音楽の復刻と制作に尽力している。楽団「カロード・モトーン」を結成し、澤登翠をはじめとする弁士とともに全国で公演。指揮、三味線、ギターを担当。又、「ロックギタリストのためのJ・S・バッハ曲集」を出版している。フィルムセンターでも幾度か演奏を披露している。



伴奏者紹介

(50音順)

一噌幸弘(いっそう・ゆきひろ)

[能楽師・一噌流笛方]  
一噌幸政の長男として9歳で初舞台を踏む。以来、能楽師として古典の舞台をつとめながら、1991年よりは、笛の新しい可能性を追求する自主コンサート『モヒヤリ』を主宰する。また、即興演奏家としては内外の様々なジャンルのミュージシャン、あるいはアーティストと共演するなど、新たな活動の場も開拓している。無声映画の生伴奏は今回が初の挑戦。



小沢あき(おざわ・あき)[ギター]

自身が主宰する「BYFAL」「小沢あきオーケストラ」の他、ジャズやポップスのヴォーカリスト達との共演や、エレクトロニクスのバンドへの参加など、活動範囲は多岐に亘る。NFCでは昨年、本年と「こども映画館」でピアノの永田雅代と組み「FEBO」として無声映画の伴奏を披露した。今回はソロでの生伴奏となる。



曹雪晶(ツァオ・シュエジン)[二胡]

上海民族楽団での活動を経て来日。日本全国でコンサートを行い、CDやCM音楽の演奏など様々な分野で活動。中国民族音楽の他、邦楽音楽家やクラシック、ジャズ等他ジャンルの音楽家とのコラボレーションにも意欲的に取り組む。1998年にはフィルムセンターで初の無声映画伴奏を披露した。



田ノ岡三郎(たのおか・さぶろう)

[アコーディオン]  
東京音楽大学作曲科映画放送音楽コース卒、在学中は羽田健太郎、服部克久に師事。テレビ番組やCMの音楽などの作曲活動を経て、パリのミュゼットに師事し、国内外でライブ公演を行う。今年9月にポルトガルの国際ダンスフェスティバルに舞踏家の櫻井郁也氏と参加した。無声映画の生伴奏は今回が初の挑戦。



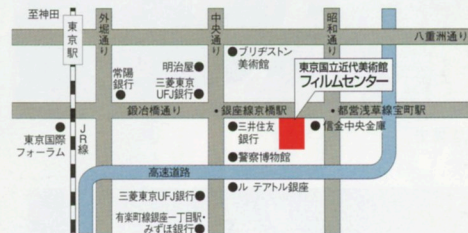
	金曜日	土曜日	日曜日
10月	2:00pm 6 喜劇 汗 弁士=坂本頼光 (67分)	0:00pm 7 マックス・ランデー 短篇集 弁士=桜井麻美 ピアノ=新垣隆 (計79分)	0:00pm 4 愛の町 弁士=斎藤裕子 ギター=湯浅ジョウイチ フルート=鈴木真紀子 (105分)
	6:00pm 7 マックス・ランデー 短篇集 弁士=桜井麻美 ピアノ=新垣隆 (計79分)	3:00pm 4 愛の町 弁士=斎藤裕子 ギター=湯浅ジョウイチ フルート=鈴木真紀子 (105分)	3:00pm 6 喜劇 汗 弁士=坂本頼光 (67分)
11月	0:00pm 1 ふるさとの歌 他 ギター=小沢あき (計72分)	0:00pm 2 瀧の白糸 弁士=澤登翠 (102分)	0:00pm 3 折鶴お千 弁士=片岡一郎 (91分)
	3:00pm 3 折鶴お千 弁士=片岡一郎 (91分)	3:00pm 1 ふるさとの歌 他 ギター=小沢あき (計72分)	3:00pm 2 瀧の白糸 弁士=澤登翠 (102分)
	2:00pm 5 風雲城史 笛=一噌幸弘 (68分)	0:00pm 9 桃花泣血記 二胡=曹雪晶 (95分)	0:00pm 5 風雲城史 笛=一噌幸弘 (68分)
	6:00pm 8 ジゴマ 他 アコーディオン=田ノ岡三郎 (計67分)	3:00pm 8 ジゴマ 他 アコーディオン=田ノ岡三郎 (計67分)	3:00pm 9 桃花泣血記 二胡=曹雪晶 (95分)

\*題名の青字は溝口健二作品

●京橋映画小劇場とは

平成18(2006)年度よりフィルムセンターは、これまで教育機関のための特別映写や一部の共催事業の会場として使用されてきた小ホールを、《京橋映画小劇場》(KYOBASHI-ZA)の名のもと、年に数回、フィルムセンターの主催上映企画にも利用し、さらなる上映活動の拡充を図ることとなりました。

フィルムセンター所蔵作品の公開を中心に、外部団体との共催企画も引き続き模索しつつ、多彩な上映企画の実現を目指します。大ホール・展示室企画ともども、皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:  
東京外口銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分  
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分  
東京外口有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分  
JR京橋駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル03-5777-8600  
NFCホームページ:  
<http://www.momat.go.jp/>  
NFC携帯電話ウェブサイト:  
<http://www.momat.go.jp/nfc/k/>

